

みなさん、こんにちは。

私はミャンマーから来た、ヤティプーウイントです。

今日は、「留学で変わった私の未来図」についてお話しします。

第一の未来図 — これは、描くことをあきらめかけた地図でした。

日本に来る前、私は自分の未来を描くことさえ難しくなっていました。

母国ミャンマーでは、社会の状況（社会情勢）がとても不安定でした。

「あすはどうなるのか」「この先、自分は何ができるのか」。

大切な家族や友人の安全を心配しながら、自分の夢や将来を考えることは、難しかったのです。

未来を描くためのキャンバスそのものが、（霧の中に）消えてしまいそうでした。

その時、「日本への留学」という一筋の光が、私の前に差し込んできたのです。

第二の未来図 — これは、まっすぐな道が見え始める地図でした。

日本での生活は、決して簡単ではありませんでした。

しかし、そこで気づいたことがあります。

「日本は、頑張れば頑張るほど、チャンスが見えてくる国だ」と。

日本語が少し話せるようになると、アルバイトが見つかりました。

授業を真面目に受けると、先生が進学のアドバイスをくださいます。

努力すれば、確実に次のステップへとつながる。

この感覚は、私に大きな希望を与えてくれました。

真っ白だった地図に、ようやく一本のまっすぐ、「可能性」という線が引かれた瞬間でした。

第三の未来図 — これは、優しい色の地図でした。

私の世界に、たくさんの温かい「光」が差し込んできました。

学校の先生方は、いつも「君ならできる」と言って、背中を押してくださいます。

アルバイト先の日本人の方々は、私の拙い日本語を温かく受け止め、「大丈夫だよ」と励ましてくれました。

彼らは私の未来図と一緒に描いてくれた共同制作者です。

(彼らは一緒に私の未来図を描いてくれました)

皆様のおかげで、私はようやく自分の中に問いかけることができたのです。

「自分のためだけでなく、ミャンマーのために、私は何ができるのか？」

「自分の心は、本当は何を求めているのか？」

答えを探す中で、一つのはっきりとした道が見えてきました。

「日本の大学で、社会に役立つ『ものづくり』の技術を学びたい」

その目標に向かって、私は必死に走り続けました。

そして今 — 新しい未来図が、ここにあります。

今、私は「福山大学 機械システム工学科」の学生です。

描くのをあきらめかけた未来の地図は、今、「エンジニア」という確かな目標と、
学ぶ責任で輝き始めています。

ミャンマーで道を見失いかけたあの日から、日本で「社会を支える技術」という道
を見つけた今日まで。この変化こそが、私の力の源です。

ところで、私の未来図はまだ完成していません。

福山大学で機械工学を学ぶ今が、私の未来図を形づくっています。

いつか、ここで得た知識と技術を持って、ミャンマーと日本、そして世界の人々の
ために役に立ちたい。

そう強く願っています。

ご清聴ありがとうございました。